

適期防除と雑草対策で品質・収量を確保！

マメシンクイガ・紫斑病は大豆の収量・品質に影響を及ぼすため、適期に薬剤防除を行いましょう。また、刈取りに向けて除草を行い、大豆の品質向上を図りましょう。

1 マメシンクイガ

防除適期 **1回目** 8月25日頃 **2回目** 9月5日頃（1回目の10日後）

- ◆ 日長に反応し成虫の発生時期が決まり、8月下旬～9月上旬に産卵盛期となる。ふ化幼虫の侵入を防ぐため **8月下旬（8月25日頃）及び9月上旬（前回散布10日後）の2回防除を基本とする。**
- ◆ **連作圃場や前年被害の見られた圃場は、生息密度が高い傾向があるため、必ず2回薬剤防除を行う。**

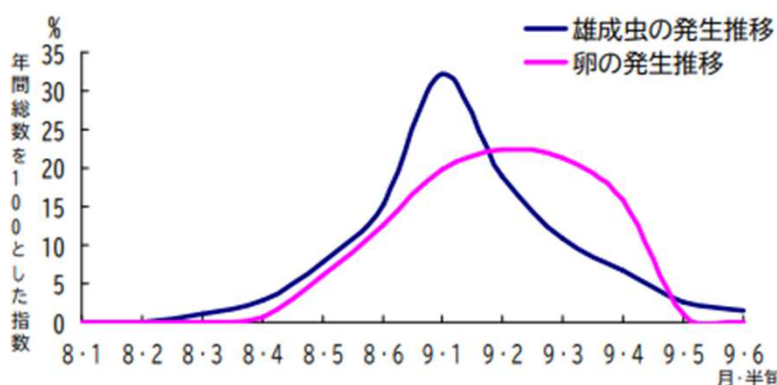


図1 フェロモントラップによる雄成虫の発生推移と産卵推移

2 紫斑病

防除適期 開花期25日後～35日後

- ◆ 開花期から40日程度が感染時期で、気温が25℃以上・多湿条件で感染しやすい。
- ◆ **マメシンクイガと同時防除の場合は、マメシンクイガの1回目防除の時期に合わせる。**



⇒ **マメシンクイガ、紫斑病の薬剤は莢まで付着するよう丁寧に散布する。**

3 雑草処理

- ◆ **雑草は、子実肥大の阻害、汚損粒の発生を招く。** 雑草が種子を付ける前に圃場から取り除くことで、次年度の圃場内の雑草種子密度を抑えることにもつながる。
- ◆ 登録が「雑草茎葉散布」となっている除草剤は、大豆の茎葉にかからないように散布する。

⇒ **雑草の大型化を防ぐとともに、収穫直前に雑草の抜き取りをする手間が省けます。**

